

■ 第72回調査研究方法検討会かわら版 ■

去る2018年10月27日(土)、28日(日) TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋ルーセントタワー(名古屋市)にて、第72回調査研究方法検討会が開催されました。

今回、会場の準備等にあたっては瀬尾智子氏のお世話になりました。検討会の報告要旨は、各演者の方へお願いしております。ご発表いただいた研究の概要とともに、検討会で議論された内容も含めご報告いたします。

■ 第72回調査研究方法検討会プログラム ■

27日(土)

- 「インフルエンザの流行調査と抗インフルエンザ剤の治療効果についての研究」

齋藤玲子

インフルエンザの治療には、ノイラミニダーゼ阻害剤がおもに使われてきたが、平成30年3月に新しい機序の抗インフルエンザ剤である、バロキサビル・マルボキシル(ゾフルーザ®)承認された。2018/2019年シーズンに、ノイラミニダーゼ阻害剤と、バロキサビル・マルボキシルとの臨床効果の比較調査を予定しているため、本検討委員会で研究デザインへの意見を求め、協力医療機関を募った。

- 「アモキシシリン (AMPC) 処方の障害となっている要因を探る」

牟田広実

本研究は、1. 日本外来小児科学会員の連鎖球菌性咽頭炎、急性中耳炎に対しての第一選択薬を調査すること。2. ペニシリン系以外の抗菌薬を選択している会員には、なぜペニシリン系を使用しないのかを尋ねることで、処方の障害となっている要因を探り、ペニシリン系抗菌薬処方割合の向上をはかるための施策を提言することを目的に、インターネットによる調査を計画している。内容的には概ねご賛同いただき、質問票の細かい文言などについてご意見を頂いた。今後、リサーチ委員会、倫理委員会の審査を経て、実施する予定である。

- 「3歳児の肥満に関する横断研究」

尾崎貴視

香川県三豊市・観音寺市では、3歳児健診において adiposity rebound に注目した肥満予防対策が検討されている。同対策を進めてゆくうえで三豊・観音寺市医師会では、行政や保護者と連携して情報を収集し、当地における3歳児時点における肥満リスクを調査することを検討している。この方法につき、ご意見・ご指導をいただいた。

近く、日本外来小児科学会倫理委員会に提出予定である。

○ 特別講演「混合研究法について」

浜松医科大学健康社会医学 教授 尾島俊之先生

混合研究法とは、量的アプローチと質的アプローチを統合することにより、それぞれのアプローチを超えた理解が得られる研究法です。従来の量的アプローチは、内容の詳細がわからない、想定した項目の状況しかわからないという限界が、一方で、質的アプローチは、その項目の頻度や定量的な性質がわからない、因果関係の検証は難しいという限界があります。混合研究法により、それぞれの限界を補い合うことができるのです。

混合研究法には3つの基本デザインがあります。説明的順次デザインは、まず量的研究を行い、その結果を質的研究の結果で説明するものです。例えば、量的アンケートの後で、何人か個別に話を聞いて、回答の意味を解釈するなどがあります。探索的順次デザインは、まず質的研究を行い、その結果を量的研究の結果で一般化するものです。例えば、アンケート調査の前に、何人か個別に話を聞いて、調査項目や選択肢を設定するなどです。収斂デザインは、質的研究と量的研究の両方を同時に行って、それらの結果を比較・関連付けの検討を行って解釈するというものです。その他、種々の応用デザインもあります。

従来の保健医療活動や PDCA を回すことも混合研究法として理解することができます。現実の問題解決には、量のみや質のみより、混合研究法が有用です。

日本混合研究法学会年次大会兼国際混合研究法学会アジア地域会議が2019年9月14～16日に浜松市にて行われます。詳細は決まり次第順次、日本混合研究法学会ホームページに掲載します。

28日(日)

○ 「乳児期の栄養摂取状況と鉄欠乏性貧血発症に関する調査」

江田明日香

《目的》我が国の乳児期における栄養摂取状況と、鉄欠乏性貧血発症との因果関係を調査する

《方法》9～10 か月個別乳児健康診査において、同意が得られた乳児の血清ヘモグロビン値（微量採血）を測定する。同時にアンケートにて、乳汁栄養方法、児の発育経過、家庭の食環境、妊娠期の母体栄養に関する調査を行い、栄養改善が必要なヘモグロビン値のカットオフ値設定が可能か調査する。

今回初めてご相談させていただきました。当初は母乳栄養の乳児対象に鉄欠乏性貧血の危険因子を調査するデザインを考えておりましたが、栄養方法は関係なくリクルートした方がよい、微量採血でのカットオフ値の設定を目標にしたらよい、などご意見を頂きました。

引き続き委員会にて研究デザインをご相談させて頂きたいと思っております。

○「肥満ハイリスク 3 歳児のコホート研究」

尾崎貴視

3 歳児健診で将来の肥満リスクが高いと考えられる児は、当地の基幹病院へ紹介され、治療・指導が行われる予定である。その際、三豊・観音寺市医師会では、基幹病院、保護者と連携して情報を収集し、肥満ハイリスク児が 7 歳（小学 1 年生）になるまでフォローされる中で如何に体格や血液検査などのパラメーターが変動するのかを把握し、肥満との関連を検討したいと考えている。その方法につき、ご意見・ご指導をいただいた。

近く、日本外来小児科学会倫理委員会に提出予定である。

○「予防接種と子宮頸癌ワクチンに対する意識調査」

久山 登

子宮頸がんワクチンは、2013 年 6 月の「積極的接種勧奨の中止」以来、接種は事実上の中止状態にある。この接種率の低さは、世界のワクチン忌避研究での接種率と比較しても類を見ない低さとなっている。演者は「積極的接種勧奨の中止」が接種率低下の一番の理由と推定し、厚労省の早急な方針転換は期待できず医療者からの接種勧奨再開の提言が必要と判断した。この観点から、住民と医療関係者の接種忌避の背景として子宮頸がんワクチンに対する住民と医療者の意識を知ることが目的として、保護者対象と医療者対象の 2 つのアンケートを提示した。討議者より、子宮頸がんワクチンの知識の風化の指摘と、接種している人に絞った接種理由の調査がより簡便で的確なのではとの有益な提言があった。また日本の先行研究の参照、保護者向けと医療者向けのアンケート項目の一致の提言もあった。これらの提言を踏まえて具体的な研究計画に着手する予定である。

連絡先：〒820-0040 福岡県飯塚市吉原町 537 いいづかこども診療所 牟田広実  
FAX: 0948-80-5632 , E-mail: qze05346@nifty.com